

科目名	日常生活活動学演習			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	2 後期
【授業の目的・ねらい】 疾患別の日常生活活動の評価方法や指導方法を学び、それらを身につける 臨床実習に生かす MTDLPの基礎を学ぶ							
【実務者経験】 作業療法士として順心会幸生病院、介護老人保健施設白寿苑・夢前白寿苑にて、身体障害領域・老年期領域のリハビリテーションに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 疾患別の日常生活活動の特徴や方法について演習を通して学ぶ							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 脳血管疾患の対象者の日常生活活動の基本的な方法を指導できる（基本動作、排泄動作、更衣動作等） 頸髄損傷の対象者の日常生活活動の基本的な方法を自分でできる							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	オリエンテーション 脳卒中片麻痺（疾患・機能障害の概要）						配布プリント
2	脳卒中片麻痺（起居動作）						配布プリント
3	脳卒中片麻痺（移乗動作）						配布プリント
4	脳卒中片麻痺（移動動作）						配布プリント
5	脳卒中片麻痺（更衣動作・排泄動作・食事動作）						配布プリント
6	脳卒中片麻痺（入浴・コミュニケーション・IADL）						配布プリント
7	頸髄損傷（疾患・機能障害の概要）						配布プリント
8	頸髄損傷（基本動作：起居・移乗・移動）						配布プリント
9	頸髄損傷（食事・排泄・更衣）						配布プリント
10	頸髄損傷（整容・入浴・環境制御装置他）						配布プリント
11	パーキンソン病						配布プリント
12	関節リウマチ						配布プリント
13	神経筋疾患						配布プリント
14	呼吸器疾患						配布プリント
15	その他の疾患とまとめ						配布プリント
定期試験							
【使用教科書・教材・参考書】 PT・OTビジュアルリストADL 柴喜崇・下田信明編 羊土社							
【準備学習・時間外学習】 学んだ内容を定着させるため、復習を毎回行う。 実技に関しては、身につけることができるまで、練習を行う。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は小テストを50点、定期試験を50点とし合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							